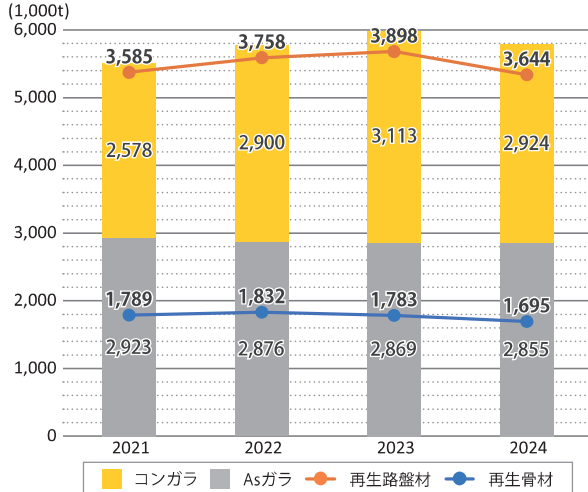


是正へ対応要望継続

日合協、広域搬送支援など

ガラ需給ギャップ

東京出荷圏工場合材工場 ガラ受入・再生砕石販売 数量推移



アスファルト合材工場が受けているアスファルトガラ(アスガラ)、コンクリートガラ(コンガラ)の需給ギャップが続いている。日本アスファルト合材協会(日合協、今泉保彦会長)によると、東京、埼玉、千葉、

神奈川の1都3県の32工場は7～10月の受入量に対して、再生骨材、再生路盤材としての出荷が下回った。余剰・滞留が続いており、同協会は需給ギャップの是正や広域搬送への支援を引き続き求めたい意向だ。

東京に製品出荷が可能な32工場(東京出荷圏工場)の7～10月の受入量と販売量は、受け入れたアスガラが約467万ト、コンガラが512万トで、再生骨材は275万ト、再生路盤材が642万トとなった。受け入れたガラが残り、年度ベースで見ても21年度以降から傾向が変わっていない。一方、再生骨材と再生路盤材の需給を巡っては、24年度の場合、1都3県は余剰気味なのに対して、北海道、東北、近畿以西は不足気味になっているという。日合協は需給ギャップの是正を巡る対応を関係機関に求める考え。都市部の再開発などから出てくるガラの地産地消に向けて、再生骨材、再生路盤材、再生アスファルト合材としての積

極的な活用を要請する。一部の東京出荷圏工場を対象に再生骨材、再生路盤材を富山市や北九州市の工場に貨物輸送する実証事業に取り組み、問題なく輸送できることを確認済み。そこで鉄道や船舶を活用した需給バランスの適正化への支援も要請する。廃棄も視野に入れた最終処分検討も必要とみている。

